

PET サマーセミナー2021 in 下呂 印象記

佐藤 葉子

Satoh Yoko

最初におことわりしておきます。今回の印象記は、「PET サマーセミナー2021 in 下呂」が①1年延期、②規模縮小、③ハイブリッド開催、と前代未聞の大会となったため、学術的なことを1ミリも含んでおりません。あしからず。

PET サマーセミナー2021 in 下呂が2021年8月27日(金)～29日(日)、岐阜県下呂温泉・水明館にて、田所匡典大会長のもと開催されました。この大会は、もともと2020年8月に予定されていましたが、2020年春から拡大した新型コロナウイルス感染症まん延(かつ遷延)のため1年延期となっていたのでした。ハイブリッド(現地+オンライン)とすることは比較的早い段階で決まったものの、コロナ感染陽性者数の増減はまさに波のごとく繰り返し到来し、最終的なプログラムの基本構想が発表されたのは大会のおよそ3か月前(2021年5月頃)だったと思います。会場は予定通り、下呂温泉の老舗旅館・水明館、プログラムは通常の4列から2列に減数、懇親会なし、エクスカッションなし。2021年8月に入ると過去最大の第5波(PCR陽性者数)が襲いかかり、我々が山梨県にも(田舎なのに)まん延防止等重点措置が出され、大会初日の8月27日(金)からはなんと大会地である岐阜県にも緊急事態宣言が発令されました。それでも田所大会長の英断で、予定通りに8月27日(金)に開催初日を迎えました。

当院は来年、山梨県甲府市においてサマーセミナー2022を開催させていただく予定になっているのにこんな過去に例を見ない事態となり、何としても現地の様子を視察しなくては…と、筆者(大会長)と診療放射線技師2名(実行委員長と副委員長)の精鋭3名(いや、それ以上は無理)で現地参加をしてきました。出発前から完全武装、これ以上ない厳しい感染対策を講じ、出発前にはPCR検査陰性を確認し、公共交通機関を使わずに自家用車で下呂入りすることにしました。

しかし大会数日前には豪雨のため、下呂への道路が土砂崩れのため一部不通になるという、泣き面に蜂とはこのこと。幸い出発当日までには、土砂崩れ部分の応急処置で何とか通行できることになりましたが、確かに崩れた法面を目撃しました…。山越え谷越え、到着した下呂は快晴で、空は抜けるように青く、飛騨川に手を入れるとひやりと冷たく(さすがに豪雨の影響が残る水量が多かった)、自然の中に身体を置いて、外の風に吹かれていると、このように自然の中に出たのは久しぶりだということに気付きました。そう、我々医療者はどれほど長い間院内にこもって、身も心も縮こめて暮らしていた(いる)ことでしょう。

会場となった旅館・水明館は非常に大きくて立派な温泉旅館ですが(写真1)、現地参加者は少なく、あちこちに体温計や消毒薬があったり、席同士が離れていたり、と寂しい雰囲気でした。それでも、久しぶりの再会をディスタンスを取りつつも喜びあう姿があちこちに見られ、感無量でした。

さて内容を振り返ります。これまで、医学、技術、薬学、看護の基本4列(福島大会では更に工学1列)でプログラムが生まれ、会場も主に4部屋で行われていましたが、今年は2列構成となり、オンライン参加者向けに両会場のライブ配信が行われました。



写真1 飛騨川河川敷から会場の水明館を臨む

まぶしいくらいの晴天。数日前の豪雨の影響か、水量が多かった



写真2 ティータイムセミナーで提供された銘菓セット

箱の土産銘菓をばらして、水明館さんがバックをされたとのこと。1袋で様々な銘菓が楽しめた

しかし、緊急事態宣言発令下のため、急遽、21時までに全プログラムを終了しなければならなくなりました。サマーセミナーの最大のお楽しみ、夜の学校も20時～21時と1時間に短縮され（もちろんお酒なし）、座長・演者の先生の努力により、21時きっかりに終了しました。ただ聴衆としては、短時間でありながら内容の濃い、大変楽しい夜の学校でした。

2日目の特徴としてはなんとといっても共催セミナーが続いたことでしょうか。2019年の段階で、大会側と共催メーカーさんとの契約が成立した後に延期が決まり、更に通常のセッション数を半減させて2列構成としたため、飲食を提供いただく共催セミナーを縦列して行わざるを得なかったようです。さすがにお弁当が続くと食べきれないかも・・・と心配していましたが、スタッフの皆さんのアイデアで、お弁当にお茶、フルーツ、お菓子等、楽しい食べ物を配布してくださり、どれもとても美味しくいただきました（写真2）。ただし黙食。

演者としては、予期せぬ通信トラブル対策として、バックアップ用の録音入り講演スライドを事前に提出することが求められました。依頼から事前スライド提出までの期間が短く、（また私は60分という長い講演をいただいていたので）準備が大変でした。また座長として私は現地にいましたが、オンライン参加のため座長が現地に来ることができなかったセッションでは、質疑応答に苦慮されていました。これらは来年への課題です。しかし、すべてのセッションで事前に通信リハーサルをしてくださったため、全体的には非常にスムーズな進行であったように見受けられました。

エクスカッションも中止、名所を訪れることもな



写真3 水明館玄関にて

筆者（左）と2022年甲府大会実行委員で放射線技師の池川さん（右）

く、温泉街のあらゆる店舗が閉店しており、コンビニで夕飯を買って、部屋で個食、というような3日間を過ごしました。私は会場である水明館に宿泊しましたが、館内も宿泊客はまばらでした。3か所ある大浴場のうち2か所を利用しましたが、いずれも貸し切り状態。のびのびと名湯に浸かりながらも、このお風呂を維持する水明館さんのご苦勞にも思いをはせました。

刻々と状況が変わり、想像を絶する多くの制限がある中で、大会長の田所先生、実行委員長の加藤先生はじめ、大会や水明館のスタッフの方々、共催メーカーの皆さんのおかげで、大きな事故もなく、無事3日間の日程を堪能することができました。大会最終日の閉会式で、「来年は是非山梨で、皆さんでワインを飲みましょう。甲府で皆さまをお待ちしています！」と宣言して下呂を後にしました。なお、病院に帰り着いた5日後に再度PCR陰性を確認し、今回の我々のミッションも無事に終わり、胸をなで下ろしました。さあ、これから「PETサマーセミナー2022 in 甲府」に向けて本始動です。ハイブリッド開催となる可能性が高いと思いますが、今回得た経験を生かしてよい大会にしたいと思います。皆さまのご参加を、心よりお待ち申し上げます。

（山梨 PET 画像診断クリニック）